



「見たり、聞いたり、探ったり」No.268

通算 No.419

青木行雄

世界の人口と〔2022年〕  
新型コロナウイルス感染状況〔2022年6月〕

2019年に国際連合が発表した「世界人口推計2019年版」によると、2027年頃にはインドが中国を抜き、もっとも人口が多い国になると予想されているという。インドだけではなく世界的に人口増加が見込まれており、今後の食糧や雇用、インフラの安定を視野に入れなければならないと国際連合は見ている。

今後もっとも人口が増加すると見られているのは、インドをはじめ、ナイジェリア、パキスタン、コンゴ民主共和国、エチオピア、タンザニア連合共和国、インドネシア、エジプト、アメリカ等であるという、とくにサハラ以南のアフリカの人口は2050年までに倍増すると考えられている。

しかし、今回の「原因不明の肺炎」「新型コロナウイルス」、ロシア・ウクライナ戦争による食料難などがどの程度人口増加に影響していくのか等も見てみたいと思った。

まず、「2022年」最新世界人口ランキング。

国連人口基金 (UNFPA) が発表した「世界人口白書2022」によると、2022年の世界の総人口は(79億5,400万人)だと記されている。日本は11位で、前年と同じ順位は変わっていない、新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻などの世界情勢は人口にどのような影響を与えたのだろうか。



2022年「4月6日」の新規感染者数、4県で過去最高の数。



2022年「4月29日」の国内の新規感染者数  
東京3,893人、大阪2,619人、沖縄、1,585人、北海道2,927人、北海道は大阪より多い。



2022年「6月6日」の日本国内のコロナ新規感染者の人数、かなりの減少である。

世界がこの新型コロナウイルスで大変深刻な状況の中ではあるが2021年からの前年から、7,900万人も増加し、前記のように2022年、79億5,400万人になり、80億人に達するのも目前の数字であった。

※最新の世界人口ランキングの一部を記して見る

[2022年] 最新世界人口ランキング、

「全世界の人口数79億5,400万人」			感染者 (2022年 6月25日～27日)	
順位	国名	人口	順位	人数
1位	中国	14億4,850万人	74位	888,303人
2位	インド	14億66万人	2位	43,378,234人
3位	アメリカ	3億3,480万人	1位	86,909,716人
4位	インドネシア	2億7,910万人	19位	6,081,896人
5位	パキスタン	2億2,950万人	49位	1,534,603人
6位	ナイジェリア	2億1,670万人	105位	256,958人
9位	ロシア	1億4,580万人	8位	18,144,007人
10位	メキシコ	1億3,160万人	21位	5,965,958人
11位	日本	1億2,560万人	14位	9,210,607人
13位	フィリピン	1億1,250万人	34位	3,701,743人
14位	エジプト	1億600万人	88位	515,645人
15位	ベトナム	9,900万人	12位	10,742,234人
19位	ドイツ	8,390万人	5位	27,771,111人
25位	イタリア	6,030万人	9位	18,128,044人
29位	韓国	5,130万人	7位	18,319,773人
38位	カナダ	3,840万人	31位	3,942,058人
56位	北朝鮮	2,600万人	24位	4,706,190人

※そして2020年より、発生し始めた感染者ランキングの一部も記して見る

[2022年] 6月25日、世界の感染者数、死者数と率ランキング。

全世界(6月25日)		(感染者) 542,919,060人 (6.8%)			(死者数) 6,327,852人 (0.08%)	
感染順位	国名	感染者数	死者数	人口順位	人口	感染率
1位	米国	86,909,716人	1,015,789人	3	33,480万人	26.0%
2位	インド	43,378,234人	524,974人	2	140,066万人	31.0%
3位	ブラジル	32,023,166人	670,229人	6	21,400万人	15.0%
4位	フランス	30,714,200人	150,356人	22	6,540万人	47.0%
5位	ドイツ	27,771,111人	140,734人	19	8,390万人	33.0%
6位	英国	22,786,431人	180,599人	21	6,820万人	33.4%
7位	韓国	18,319,773人	24,516人	29	5,130万人	35.7%
8位	ロシア	18,144,007人	373,075人	9	14,580万人	12.4%
9位	イタリア	18,128,044人	168,018人	25	6,030万人	30.0%
10位	トルコ	15,085,742人	98,996人	17	8,500万人	17.7%
11位	スペイン	12,681,820人	107,799人	31	4,670万人	27.1%
12位	ベトナム	10,742,234人	43,084人	15	9,900万人	10.8%
13位	アルゼンチン	9,341,492人	129,016人	32	4,560万人	20.5%
14位	日本	9,210,607人	31,104人	11	12,560万人	7.3%
19位	インドネシア	6,081,896人	156,726人	4	27,910万人	2.2%
21位	メキシコ	5,965,958人	325,596人	10	13,160万人	4.5%
24位	北朝鮮	4,706,190人?	73人?	54	2,600万人	17.3%
31位	カナダ	3,942,058人	41,878人	38	3,840万人	10.3%
34位	フィリピン	3,701,743人	60,518人	13	11,250万人	3.3%
49位	パキスタン	1,534,603人	30,392人	5	22,950万人	0.7%
74位	中国	888,303人	5,226人	1	144,850万人	0.06%
88位	エジプト	515,645人	24,723人	14	10,600万人	0.5%
105位	ナイジェリア	256,958人	3,144人	7	21,670万人	0.12%

この新型コロナウイルスがどうして発生し約3年にも感染し続けているのか、もう一度原点から振り返り調べて見た。

中国が2019年(令和元年)12月31日、武漢市で「原因不明の」肺炎の集団感染が確認されたとWHO(世界保健機関)に報告があった。翌年の1月9日に国営メディアの報道で、中国の専門家グループが「新型コロナウイルス」を検出したことが明らかになった。

最初の集団感染は「華南海鮮卸売市場」で発生したとされ、中国武漢市は23日から、全域で市民の移動

を制限する都市封鎖に乗り出した。

習近平国家主席は1月25日最高委員会を招集し「感染症の拡散を断固防止する」と強調した。その後、国外旅行を含むツアー禁止などが相次ぎ発表された。台湾が中国からの観光客の受け入れを停止し、フィリピンが武漢市との直行便を停止するなど中国との往来を制限する国や地域も出始めた。

日本では2月3日横浜港に着岸した、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客2,666人、乗員1,045人の中に新型コロナウイルスの感染者が乗船して、世界中の注目を集め、大問題となり、横浜市の対応や関係者は大変な重労働であったと思われる。

このクルーズ船1人の感染者から最終的に3,711人の乗船者より、感染者数706人を出し、死者4人を出した。日本の新型コロナウイルス感染の出発点となったと言えるかも知れない。

世界保健機関(WHO)は2020年3月11日、新型コロナウイルスの感染拡大について、世界的な大流行を意味する「パンデミック」と認定した。WHOがパンデミックの表現を使うのは、2009年の新型インフルエンザ以来、11年ぶりだという。中国では新たな感染が下火になる一方、イタリアやイランなどが拡大の起点となり、移動の自由が多い欧州で一気に拡がり始めていった。

WHOのテドロス・アダノム事務局長は「これは制御可能なパンデミックだ」と述べ、感染者の隔離などで封じ込められると強調した。各国に広範なウイルス検査や感染者特定などの対策をさらに強化するよう訴えた。

中国やイランからの入国を規制していた米国が対象を欧州に広げるなど、往来への制限も世界中に広がった。

イタリアは2020年3月10日全土で不要不急の外出を禁止したが、ウイルスの封じ込めに失敗した。患者が集中したイタリア北部は「医療崩壊」の危機に直面。多くの感染者を出した中国、韓国などに比べて高い致死率が問題になった。イタリアのコンテ首相は3月21日の演説で「戦後最も難しい挑戦。一人でもあきらめれば全員がより大きな危険にさらされる、結束してやり遂げよう」と国民に呼びかけた。

このイタリア北東部に位置する小国「サンマリノ共和国」も同様にイタリアの影響を受け危機にさらされた。何年前かに伊勢神宮の20年に一度の造営に使用した木材を利用して、欧州唯一、一宮の神社を持つ(神社庁公認)、この「サンマリノ共和国」から、日本の大使館を通して私に協力の依頼があった、小額だが寄付させてもらったことが思い出される。

この時、WHOのテドロス・アダノム事務局長は「致死率はインフルエンザの10倍と推定される」と述べ、このウイルスの危険性を訴えた。

このように3月に死者数で中国を上回って世界最多となったイタリアや米国、スペインを中心に、欧米への感染拡大が深刻化して、2020年4月11日世界の感染者は170万人を超えて死者、10万人を超えた。

2020年6月、感染者は欧州では落ち着いてきたように見えた一方、北南米を中心に急増、一時は拡大



「ダイヤモンド・プリンセス号」のたどった経路  
2020年の2月3日横浜着。

ペースが収まりつつあった米国が世界で最多となり、ブラジルが2番目となった。ペルーやチリも上位に入るまで増加した。WHOの事務局長は19日の会見で「世界は新たな、危険な局面に入った」と警戒を呼びかけた。そして7月7日ブラジルのボルソナーロ大統領までが感染してしまった。

2020年8月11日、年初から始まった感染者が8ヶ月も立たない内に世界の累計で2千万人に達した。

2020年10月2日米国のトランプ大統領も感染し入院することになった。

10月フランスのパリなど夜間外出禁止となりその後、全土に広がった。

英国もロックダウン(都市封鎖)を実施すると欧州に再び感染の嵐が蔓延した。

2020年12月世界の新型コロナウイルスの感染者は、累計7千万人を超えた、そしてこの時点で死者数約160万人にのぼった。

中でも、感染者数と死者数ともに世界最多の米国に激しい「第3波」が到来した。一時は1日あたりの新規感染者数が17万人と最悪のペースで増え続け、連日1千人規模の死者も出続けた。

2021年11月30日までの世界の感染者他を見て見ると

	感染者数	死者数
全 世 界	262,203,718人	5,207,775人
① 米 国	48,438,017人	778,601人
② イ ン ド	34,587,822人	468,980人
③ ブ ラ ジ ル	22,084,749人	614,316人
全 日 本	1,726,905人	18,358人
東 京	382,175人	3,166人
大 阪	203,134人	3,064人

2022年(令和4)5月31日までの感染者数を記して見た

	感染者数	死者数
全 世 界	529,371,188人	6,289,018人
① 米 国	84,012,408人	1,004,260人
② イ ン ド	43,158,087人	524,630人
③ ブ ラ ジ ル	30,977,661人	666,516人
全 日 本	8,853,683人	30,623人
東 京	1,540,308人	4,502人
大 阪	973,820人	5,046人

2022年(令和4)6月28日

	感染者数	前日比	死者数	前日比
全 世 界	544,498,126人	(898,650人)	6,330,573人	(1,513人)
① 米 国	87,092,233人	(124,594人)	1,016,208人	( 270人)
② イ ン ド	43,418,839人	( 11,793人)	525,047人	( 27人)
③ ブ ラ ジ ル	32,130,316人	(107,150人)	670,532人	( 303人)
全 日 本	9,285,718人	( 19,387人)	31,250人	
東 京	1,591,498人	( 2,514人)	4,570人	
大 阪	1,009,769人	( 2,302人)	5,206人	

2022年6月、この所世界の新型コロナウイルスの感染者が増え始めた。感染力が強いとされる「BA.4」「BA.5」オミクロン型の派生型の流行が背景にあるようだ、ただ、現時点では死者や重症者の数に大きな変化はみられず、各国はコロナとの共生を目指す方針には変わりはないようである。米ジョン・ホプキンス大学によると、世界の新規感染者(7日移動平均)は26日時点で66万2千人となり、2ヶ月ぶりの水準に増加したという。

オミクロン型の流行は1月がピークで最近は落ち着いてきたというが、各国で派生型の「BA.4」「BA.5」などが広がり始めた。

特に欧州、アメリカ、中南米でも目立つようになった、英国では6月に入り増加傾向が続き、「BA.4」「BA.5」が感染者の過半数を占めるようである。また陽性になっても報告義務がないため、実際の感染者はさらに多い可能性があるといわれている。

この所東京でも何日か続いて前週の人数をこえる日が続いており、全国に広がる事を心配するむきもある。

各国は手探りながら通常の暮らしに戻そうとやっきになっているのが現状かも知れない。

世の中の状況はこの新型コロナウイルスとロシア・ウクライナの戦争で物価の上昇が目立ち、先行きの不透明感があらわとなった。

世界の人口増加が2022年に1年間で7,900万人と言われている、このコロナでは約3年間で6月28日まで世界の死者6,330,573人と記されていた。ロシア・ウクライナ戦争と食料危機で何万人何十万人の死者が出るかわからないが早く、コロナの終息と戦争の和解・食料の安定を希望したい所である。



2021年4月27日、新型コロナウイルスの感染の真中、浅草仲みせ通り、こんなみない事は過去なかったという。



ロシア・ウクライナの戦争で被害を受けたウクライナの町並の様子。

#### 参考資料

米 ジョンズ・ホプキンス大学

日経新聞

2022年6月30日